

- 記者発表資料 -

**近代横浜港の基礎を築いた横浜港ハンマーヘッドクレーンが
【土木学会選奨土木遺産】に認定されました！**

国土交通省関東地方整備局が所有する「横浜港ハンマーヘッドクレーン」(横浜市中区)が、平成30年度の土木学会選奨土木遺産に認定(9月28日)されました。

横浜港ハンマーヘッドクレーンは、1914年(大正3)に横浜港新港ふ頭に整備された英国製の国内最初の港湾荷役専用クレーンです。それまでの人力による荷役や小船はしけによる沖合の船への荷役から、直接船へ重量物の荷役が可能となるなど、我が国の港のクレーンによる荷役の先駆けとなりました。また、堅固なニューマチックケーソン基礎により、1923年(大正12)の関東大震災でも被災を受けませんでした。この堅固な基礎構造を含め、建設以来100年以上も維持されており、横浜港の発展に大きく寄与した歴史的な構造物です。

名 称:横浜港ハンマーヘッドクレーン
完成年次:1914年(大正3)
形 式:50t定置式電気起重機
所 有:国土交通省 関東地方整備局

※土木学会選奨土木遺産の認定制度とは

土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、平成12年度に創設されました。(Webアドレス http://committees.jsce.or.jp/doboku_isan/)

※「ハンマーヘッド」の名前の由来

塔状の構造物の上に水平のジブ(Jib:アーム部)を配置した形状で、全体の形状がハンマー(Hammer:槌)に似ていることからハンマーヘッドと呼ばれている。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ

お問い合わせ先

関東地方整備局 港湾空港部

海洋環境・技術課 課長

海洋環境・技術課 課長補佐

海洋環境・技術課 係長

たかはし やすひろ

高橋 康弘

くぼ てつや

久保 哲也

すが たかし

菅 崇

電話 045-211-7420

FAX 045-211-0204

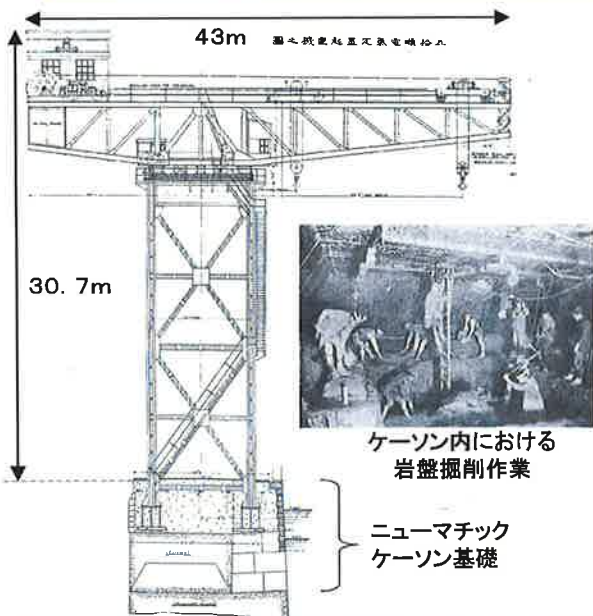
写真第十四



横浜港 震災に無事なる50噸定置式起重機



横浜港ハンマーヘッドクレーンの外観



断面図



位置図

※「ニューマチックケーソン工法」とはケーソン（鋼製又はコンクリート製の大型の函）内に圧縮空気を送りながら基礎を構築する工法で、「潜函工法」とも呼ばれる。軟弱地盤や地下水位の高い地盤を掘削する場合、そのままでは水や泥が掘削場所に流入し作業が困難になることから、予め基礎となるケーソン下部に作業空間を設け、その中に圧縮空気を送ることで気圧の高い状態で水や泥の流入を防止しつつ、掘削作業を行い基礎を構築する工法。